



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
6/27 (月)	▲ 300	▲ 3,800	▲ 4,100	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 22,800 CP等買入 ▲ 100	社債等買入 + 1,000	日: 金融政策決定会合における主な意見 (6月16・17日分) 欧: ECBフォーラム (ポルトガル、29日まで)
6/28 (火)	▲ 1,000	+ 3,000	+ 2,000		新型コロナ企業支援 ▲ 124,700		米: FHFA住宅価格指数 (4月) 米: 消費者信頼感指数 (6月)
6/29 (水)	トシ	+ 3,000	+ 3,000				米: GDP (1Q確定値) 欧: ユーロ圏景況感指数 (6月) 欧: ユーロ圏消費者信頼感指数 (6月)
6/30 (木)	▲ 700	+ 1,300	+ 600				米: 新規失業保険申請件数 (25日終了週) 欧: ユーロ圏失業率 (5月)
7/1 (金)	▲ 1,000	▲ 22,600	▲ 23,600	国債発行・償還 (2年)			日: 東京都区部CPI (6月) 日: 完全失業率 (5月) 日: 短観 (概要、要旨) 米: ISM製造業景況指数 (6月) 欧: ユーロ圏CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債大量償還を主因に前営業日対比+11兆600億円となる564兆3,600億円から始まった。22日には国債発行を主因に562兆4,400億円まで減少したものの、その後は大きな変動はなく週末には563兆2,500億円となった。

無担保コールON物加重平均金利は週初、△0.044%から始まり、その後は△0.047~△0.046%と小幅圏で推移した。週末3日積みとなる24日には、一部ビッドサイドが取り上がる動きも見られ、同金利は△0.040% (速報) となった。ターム物では月内物の1Wを中心に、主に△0.040%~△0.030%の水準で出が見られた。

来週の主な予定は、東京都区部CPIの発表 (7月1日) や日銀短観の公表 (7月1日) がある。海外ではECBフォーラムの開催 (27日~29日) や6月のユーロ圏CPIの発表 (7月1日) などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.060 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.030
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

今週の足許GC取引は、週初△0.11%~△0.10%の出合から始まった。22日の取引ではレートが低下し、一時△0.20%近辺で取引されたが、後場からレートは上昇し再び△0.10%の出合となった。短国3Mの入札が行われた24日の取引は△0.09%近辺まで上昇して越週した。SC取引では2年430~437回債、5年149~151回債、10年350~366回債、20年170~180回債、30年65~74回債、40年9~14回債などに引合が多く見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.005 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約7,900億円で、週間償還額 (約9,400億円) を下回った。発行市場は、小売りや電力、鉄鋼等で大型の発行が実施された。発行残高は先週末の27兆3,278億円から6月23日時点で27兆8,981億円に大幅増加した。今月15日にC P市場残高が初の27兆円を突破して以降も連日で過去最高残高を更新している。残高増加の要因として、足許の円安や原材料価格の上昇等による資金需要の増加に加え、社債市場で不安定な起債環境が続いていることから、発行環境が安定したC Pにて資金調達するケースが増加していること等が挙げられる。発行レートは0%近辺での出合であった。

来週の週間償還額は、約3兆7,700億円となっている。発行市場は、月末発行や期明けの発行再開に伴う大型発行が見込まれるものの、事業法人の期末の償還額が大きく償還超を見込む。発行レートは0%近辺での出合を予想する。27日に、C P等買入れオヘが4,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

6月24日の3M1090回債の入札は、最高落札利回り△0.1443% (前回債△0.1308%)、平均落札利回り△0.1836% (前回債△0.1479%) となった。来週は7月1日に3Mの入札が予定されている。